

平成 25 年度 松山市農業協同組合青壮年部組織活動報告

青壮年部と食農活動

松山市農協青壮年部石井支部 井上文昭

地域・組織の概要

我が青壮年部は県都松山市に、本所を置き松山市、東温市、松前町、久万高原町、の二市二町を活動の範囲とし、松山市農協の営農販売部を事務局として活動しています。しかしながら、久万高原町管内・東温市川上管内においては、青壮年部組織はなく、同地区は、農業者の高齢化も進んでいる地区でもあり、今後も組織化することもないと思われます。

現在の活動の範囲は、松山市内及び興居島と、松前町の盟友が主に、活動をしています。この地域は平野部と柑橘が中心ですが、松山市内は市街化区域の盟友がほとんどで、宅地並み課税対象の農地で農業を頑張っています。

さて、私が営農活動を行っている地域は、松山市の石井地区です。ご存知の方もおられるかもしれませんが、伊予路に春を呼ぶといわれているお祭り『椿さん』で親しまれている伊豫豆比古命神社周辺です。その南には、松山の陸路の玄関口の松山 IC があります。

私が生まれた約 50 年前、当時の石井村は松山市と合併しました。その頃、約 8000 人だった人口は、現在約 58,000 人と増え、逆に農地面積は 600 町歩あったものが、現在では、80 町歩と減少し、農家の後継者も数えるほどしかいません。

この様に人口が急増していくと、それまでは、お互い様で済んでいたことでもトラブルになりました。そこで、昭和 50 年に青壮年部の先輩たちが、石井の農業振興等を考え、農協の石井支所や女性部と協力して地区内の生産者と消費者を結ぶ活動として農業祭を始めました。毎年 12 月の第一日曜日に行われ、30 年以上の歴史があり、毎年、多くの人で賑わい、石井地区の行事として定着しています。農業祭の運営はもちろん、開催日に合わせて作物の植付を行う等の協力を行っており、40 年、50 年と続けていくのが我々の役目かなと思っています。

私が大学を出て松山に帰り、就職をすると同時に地区の先輩が、「地元に住るんやったら青壮年部にはいらにゃ」と言われ加入し、「青壮年部やったら消防団にはいらにゃ」と言われ入団し、「消防団に PTA はつきものだ」と言われ PTA 活動をしていた平成 10 年、石井小学校の先生より 5 年生に稲作りについて教え

てほしいと要望があり、盟友も全員この学校の卒業生ということもあり、快く引き受けました。

当時は、バケツ稲はあったものの、実際に田んぼで田植をするという事例が少なく手探り状態で授業を進めたことが思い出されます。

平成15年までは、田植と稲刈りをし、おにぎりパーティーをしていましたが、盟友の中から、そろそろマンネリ化するんじゃないかということで、

もち米で取り組むことと致しました。また収穫したもちは、地区の女性部の協力を得て餅つきを行い女性部・小学校・盟友の交流を図っています。また、餅つきを行うにあたって、臼を寄付して下さいと呼びかけたところ、あっという間に必要個数集まったという地域の協力は忘れることができません。

平成19年から小学校でもち米の育苗も行っています。育苗・田植・収穫・餅つきと一連の流れが確立されました。後は、その年の収穫米の中から翌年のもみ種をとり新5年生に引き渡せたらと考えています。

また、平成12年からは、1・2年生によるサツマイモ栽培もおこなっています。学校の中の狭いスペースの畑に、300本も植えるものですから、苗も自然淘汰され収穫の頃には1/5位になっていたり、雨の多い年には水はけの悪い場所のところは全滅したりと大変苦労しましたが、これも自然相手のことと、メニューを工夫しながら収穫祭をしています

平成21年からは毎年、職業体験イベント『きつずニア石井』を開催。多くの企業の参画をいただき、子どもたちが様々な職業体験するというイベントで、盟友は地域の消防団員として放水体験などを教えています。

農業関係では、牛の乳搾りやバター作りなど日頃、目につかないような体験ができたこと好評でした。これも、地域・盟友の協力があったからだと思っています。

平成21年からは松山市市道の清掃及び植栽活動に取り組み、地区の松山市道に名前をつける権利を手に入れたので、子どもたちと一緒にいい名前を考えていこうと思っています。

平成10年のPTAの飲み会の席での『子どもに稲のことを教えてくれませんか?』から始まった取り組みが、年を重ねるごとに変化し、地域内の美化活動・地域内交流に貢献できていると自負しています。

松山市農協管内の他の盟友も地域内の小学校・幼稚園等で食育活動を行っています。

市街化区域内では、水稻の種まきから、収穫まで、ジャガイモの植付から収

穫、サツマイモの植付から収穫、プランターを使った野菜栽培など行っています。郊外の農業地帯では、大型コンバインや田植機の見学を兼ねたお米の栽培の勉強会など、地域にあった食育活動を行っています。

松山市農協も4年前より小学生30名を対象にアグリスクールを開催していますが年々、圃場を移動しながら開催していますので各地区の青壮年部盟友もアグリスクールの活動に参画し圃場準備や栽培について盟友が汗を流しています。また、大人を対象として農協塾を開催しているようようですが、圃場をアグリスクールと農業塾が同じ場所で開催しているので、アグリスクールへは盟友が参加し、農業塾の方は農協職員が中心で汗を流しているようです。

このように、青壮年部の活動については、松山市内の子どもたちに、農業に対する農業者の思いを伝えようと各支部・盟友が頑張っていますが、市街化区域内の農業の厳しさは、地域住民との混住地帯でもあり、食育教育や地域住民との交流を深めても、農薬散布1つをとってもなかなか実施できない場合があります。ですが水田の多目的利用、水源の確保、緑地の確保など、市街地でも必要であろうと我々は、考えています。

今後の活動について松山市農協管内で活動する多くの盟友は、農地の大半が市街化区域内に所有し、宅地並みの税金を払い、相続の時は多額の相続税を払い、また、相続税猶予をもらい農業を行っていますが、農業に対する思いや、情熱は県内各地の盟友と何ら変わらないと思っています。地域住民・小学校・幼稚園などに食農に対する農業の興味・理解を深めていただきながら、街中に点在する農地の在り方について、農地を農地として未来へ託すため活動していきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。